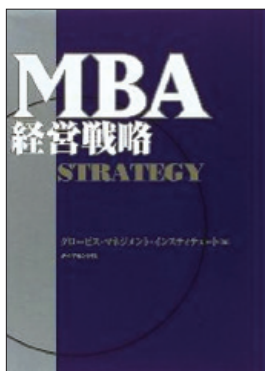


書籍紹介



相葉 宏二 著
グロービス・マネジメント・インスティテュート 編
ダイヤモンド社 刊
1999年4月8日第1刷発行、2008年10月16日第16刷発行
定価:2940円

「MBA 経営戦略」



本書は、「MBA マネジメント・ブック」「MBA アカウンティング」「MBA マーケティング」「MBA ビジネスプラン」に続く MBA シリーズ第5弾です。本シリーズはいずれもダイヤモンド社から発行されており、本書は、「ジャパン・アズ・ナンバー1」と自負していた時代からバブル崩壊後の膠着状態にあえぐ日本経済の激動の時代にかけて、経営コンサルタントとして日米欧の企業と10年以上関わってきた筆者が、経営の実務に携わる者の立場から、MBA カリキュラムで学ぶ企業経営の各分野について、よく知られている大企業の具体例を用いて分かりやすく解説した実践的で役に立つ教科書とされています。

「経営戦略」というテーマは、ある意味アプローチが難しいテーマであると思います。アカウンティングやファイナンス、マーケティングであれば、その枠組みや全体像はほぼ確立されていますが、これに対して経営戦略は、個別テーマごとに著名な分析ツールや理論はあるものの、必ずしも全体像として統合されたフレームワークが確立・認知されているわけではありません。また個別の分析ツールや理論にしても、時代によってその評価は激変します。さらに、同じ状況に置かれた競合企業が全く別の方向性を打ち出しながら、いずれも成功を収めることも珍しくなく、しかもそれぞれについて、説得力のある理由付けを行える場合が多いのです。こうした経営戦略の本質的な自由度の高さをどのように扱うかが本書のポイントとなっています。

本書の執筆にあたっては、以下の3点に留意して展開されています。

- ・ 全社戦略、事業戦略に多大な影響を与える、グローバルイゼーションやデジタル化などの環境変化にまで

視野を広く設定する。その中で今後、日本企業が目指すべき方向性を打ち出そうとすること。

- ・ 実践面で役に立つように、ビジネスマンが直面する具体的な問題を解決するための手がかりを提示すること。そのために、「ものの考え方」(コンセプト)、あるいは「思考枠組み」(フレームワーク) などにとどまらず、実際の企業のケースや分析結果のグラフなどを盛り込み、実用性を重視した。
- ・ 理論面では、グロービスの「経営戦略コースの教科書」として MBA の課程で扱われる経営戦略の重要な論点を解説すること。

また、本書では、経営戦略に必要な要素の一つとして、知的財産権の取得にも触れられていて、その点については詳細には述べられていませんが、企業の経営戦略に、立場は違えど通常業務で自分が関与する「知的財産権」の取得が少なからず関わっていることを感じました。

そして、上記のとおり、本書には経営という面で企業(商品)の成長や衰退の過程がどのようなサイクルで行われるのか、現在の有名企業がどのような戦略を立ててきたのかが面白く書かれ、「具体的な問題を解決するための手がかり」が提示されていることから、自らで自分なりの答えを導き出すなど、自身の思考の訓練にもなります。

さらに、企業経営に限らず、どの組織においても共通する、組織のあり方、真のリーダーに求められる要件や資質についても述べられており、組織の中でどのポジションに属していても、組織の一員を担っている方々にとって有益な一冊といえるのではないのでしょうか。

紹介者 特技懇編集委員 阪崎 裕美